

全体研究

【研究主題】

校内外における指導・支援の接続に関する研究

－ 特別な配慮が必要な児童生徒に焦点を当てて －

目 次

第1章 研究主題に関する基本的な考え方

1 特別な配慮が必要な児童生徒について	1
2 学年間・学校間の引継ぎ及び関係機関との連携について	1
3 研究のねらい	2
4 研究内容	2

第2章 実態調査

1 実態調査の目的と内容	3
2 実態調査の方法等	3
3 実態調査の結果	3
4 校内外における指導・支援の接続に関する課題及び対応	5

第3章 「SSPシート」を活用した円滑かつ確実な指導・支援の引継ぎや連携の在り方

1 情報を共有・協働するためのツール「SSPシート」	6
2 引継ぎ・連携のモデルプランの提案	9

第4章 モデルプランに基づいた実践

1 令和2年度の実践	11
2 令和3年度の実践	17

第5章 本研究における成果と課題

1 研究の成果	25
2 今後の課題	25

引用・参考文献	26
---------	----

〔資料〕 SSPシート	27
-------------	----

第1章 研究主題に関する基本的な考え方

1 特別な配慮が必要な児童生徒について

特別な配慮が必要な児童生徒について、本研究では、「障害のある児童生徒」、「日本語の習得に困難のある児童生徒」、「不登校児童生徒」を想定している。それぞれの児童生徒への指導に当たって配慮すべき事項については、小学校学習指導要領（平成29年告示）に以下のように示されている。

- ・ 障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点での児童生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。（第1章第4の2の(1)のエ）
- ・ 日本語の習得に困難のある児童については、個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。（第1章第4の2の(2)のイ）
- ・ 不登校児童については、保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から個々の児童の実態に応じた情報の提供、その他の必要な支援を行うものとする。（第1章第4の2の(3)のア）

同様に、中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）にも示されている。いずれの場合も、保護者や関係機関等との連携が大切であり、児童生徒の教育的ニーズに応じた個別の支援計画が必要である。

2 学年間・学校間の引継ぎ及び関係機関との連携について

特別な配慮が必要な児童生徒に対しては、学年間・学校間の縦断的連携と、放課後等デイサービス事業所、他校通級による通級指導教室及び日本語指導教室、教育支援センターなど関係機関との横断的連携による一貫した支援の継続が求められている。現在、支援の継続性を保つために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、移行支援シート、相談支援ファイルなど、学校間や関係機関等をつなぐ様々な計画やシートをそれぞれで作成している状況がある。また、幼稚園等と小学校との連絡会、小学校・中学校間及び中学校・高等学校間での連絡会、関係機関の支援連絡会等において児童生徒に関する情報の共通理解を行う取組が進められている（図1）。

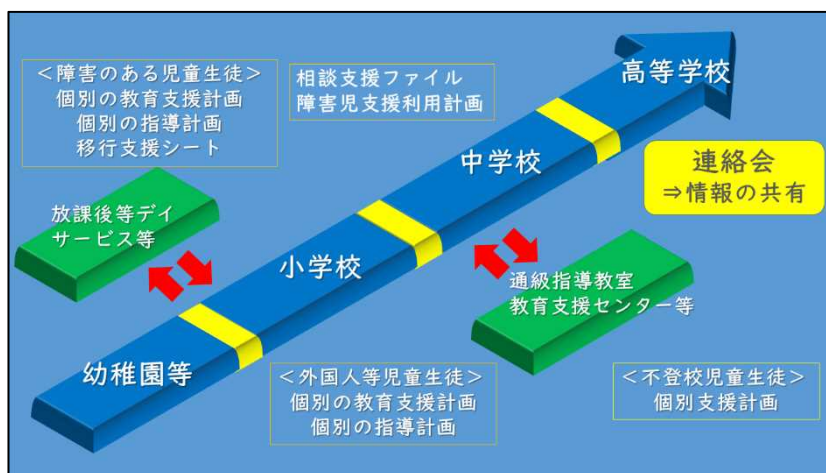


図1 学年間・学校間の引継ぎや関係機関との連携

このように、様々な計画やシート及び連絡会等により連携が図られつつあるが、当課への教育相

談や研修講座での研究協議などでは、「学年間や学校間の引継ぎや関係機関との共通理解が難しい」、「転入学してきた児童生徒の前籍校での状況や対応が分かりにくい」などの課題が挙げられている。これは、作成すべき計画やシートが多いこと、会議を設定する時間がないこと、会議の設定の仕方や進め方が分からないことなど、複数の原因が考えられる。

3 研究のねらい

中央教育審議会答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（平成31年1月25日）において、学校が作成する計画等の見直しを次のように述べている。

「文部科学省においては、特別支援教育、日本語指導、不登校児童生徒といった個々の児童生徒に応じた個別の支援計画を一つにまとめて作成するひな形を平成30年4月に示したところであるが、今後は、学校単位で作成される計画についても、学習指導要領や法令で必須とされているものを中心として、それぞれの内容を簡素化し、複数の計画を一つにまとめて体系的に作成するなど、真に効果的な計画の在り方も示すべきである。」

また、「不登校児童生徒への支援の在り方について」（令和元年10月25日付 文部科学省初等中等教育局長通知）においては、学校等の取組の充実を次のように述べている。

「不登校児童生徒への効果的な支援については、学校及び教育支援センターなどの関係機関を中心として組織的・継続的かつ計画的に実施することが重要であり、また、個々の児童生徒ごとに不登校になったきっかけや継続理由を的確に把握し、その児童生徒に合った支援策を策定することが重要である。その際、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者が中心となり、児童生徒や保護者と話し合うなどして、『児童生徒理解・支援シート（参考様式）』を作成することが望ましい。」

これらのことから、当課では「持続可能な支援」を目指し、文部科学省から示された「児童生徒理解・支援シート」のような複数の計画及びシートの統合が必要であると考え、各接続で必要な情報を共有・協働するためのツール等の提案を行い、学年間・学校間・関係機関といった校内外において、円滑かつ確実な指導・支援の引継ぎや連携の在り方を明らかにする（図2）。

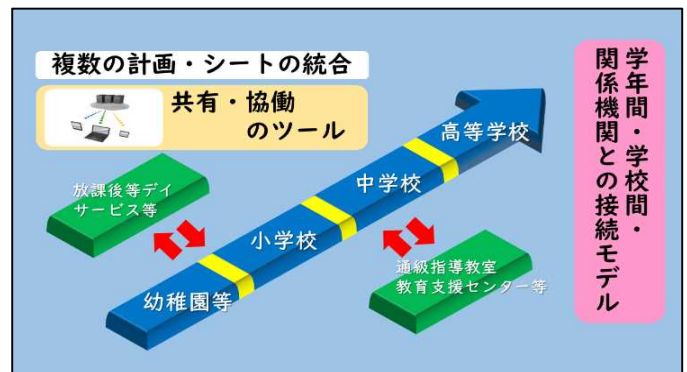


図2 持続可能な支援のイメージ

4 研究内容

本研究の内容は次のとおりである。

- (1) 学年間・学校間の引継ぎ及び関係機関との連携の現状と課題を把握するために、実態調査を実施し、分析する。
- (2) 必要な情報を一つにまとめ、情報を共有・協働するためのツールを作成する。
- (3) 研究協力員との継続的な連携を通して、特別な配慮が必要な児童生徒の学年間・学校間の引継ぎ、関係機関との連携の在り方を整理し、モデルプランを提案する。

第2章 実態調査

1 実態調査の目的と内容

小学校、中学校及び高等学校における特別な配慮が必要な児童生徒の校内外における指導・支援の接続（引継ぎや連携）の現状について、次の項目により調査を実施した。

- ① 学年間の引継ぎ
- ② 学校間の引継ぎ（転入学前の学校、幼稚園・認定こども園・保育所との引継ぎ）
- ③ 関係機関との連携（児童発達支援事業所[療育施設等]，放課後等デイサービス事業所，他校通級指導教室，教育支援センター〔適応指導教室等〕，日本語指導教室等との連携）
- ④ 様々な計画（個別の教育支援計画，個別支援計画等）の作成についての意識

2 実態調査の方法等

(1) 調査対象

令和2年度鹿児島県総合教育センターの短期研修講座を受講した教職員，令和2年度特別支援教育研修課研究協力員の所属校の教職員

回答数：小学校187人，中学校68人，高等学校40人 計295人

(2) 調査方法

質問紙調査法（選択式，一部記述式）

(3) 調査期間

令和2年6月～8月

3 実態調査の結果

(1) 学年間の引継ぎ

個別の教育支援計画等を使用して学年間の引継ぎを実施したと回答した教職員の割合は，小学校96%，中学校93%，高等学校65%であった（図3）。

いずれの校種でも，90%以上の教職員が学年間において引継ぎを実施したことは有効であると回答していた（図4）。

自由記述では，「特性や家庭環境，学力のつまづきを事前に知ることは大切である」，「引継ぎの情報が参考になった」など引継ぎが有効であったという意見が多かった。一方で，「引継ぎの情報と実際の様子とが異なっていた」，「行動面への対応，周囲への理解など必要な情報がなかった」，「引継ぎの時間設定が難しい」などの意見が挙げられており，引き継ぐ必要のある情報が，次年度の担任へ適切に引き継がれていないこともあることが推測される。

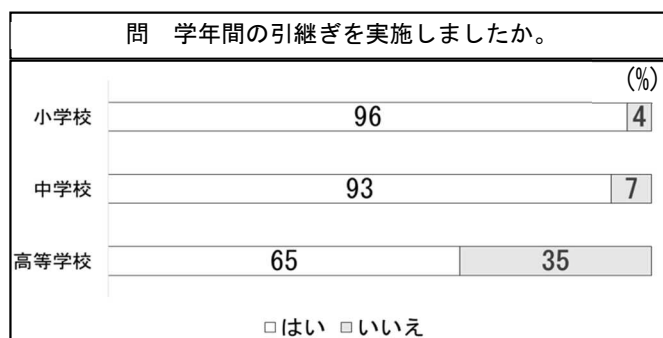


図3 学年間の引継ぎの有無

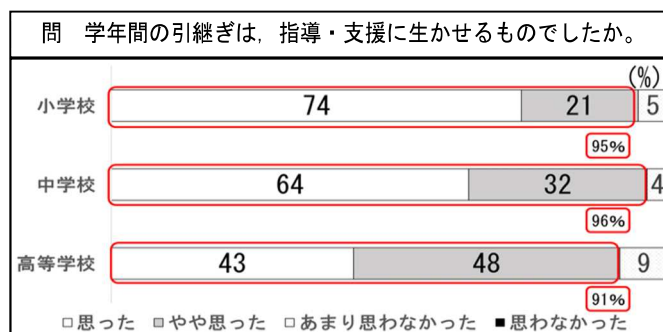


図4 学年間の引継ぎの有効性
（※引継ぎを実施した教職員の回答）

(2) 学校間の引継ぎ

移行支援シート等を使用して学校間の引継ぎを実施したと回答した教職員の割合は、小学校50%、中学校72%、高等学校67%であった。ただし、「分からない」と回答した教職員の割合を平均すると約30%であり、引継ぎの該当学年の担当でなかったことや引継ぎ資料等の活用に課題があることが推測される（図5）。

学校間の引継ぎの有効性については、小学校95%、中学校で81%、高等学校で74%が有効であると回答していた（図6）。

自由記述では、「学級編制の際に役立った」、「きめ細かな内容で様々な視点から対応できた」など引継ぎが有効であったという意見が多かった。一方で、「引継ぎ資料の内容に差がある」、「移行支援シート等を活用した取組が難しい」などの意見が挙げられており、引継ぎの内容に課題があることがうかがえる。これは、引き継ぐ側（転入学前の学校等）が必要と判断して提供した情報であっても、引継ぎを受ける側が必要とする情報と一致していないという、引継ぎ内容のミスマッチがあることなどが推測される。

(3) 関係機関との連携

関係機関との連絡会を実施したと答えた教職員の割合は、小学校48%、中学校26%、高等学校10%であった。連絡会を実施している教職員は、半分に満たない状況となっており、連絡会の実施について、連携の必要性を感じていても、どのように連携を進めていけばよいのかが分からないために実施していないという現状がある（図7）。

連絡会を実施していると答えた教職員では、90%以上がその有効性を実感しており、自由記述では、「学校以外での様子を知ることによって今後の支援に生かすことができた」、「多面的に対象生徒を理解することができた」、「専門的な立場からの助言をもらうことができた」など連絡会の有効性に関する意見が挙げられていた（図8）。

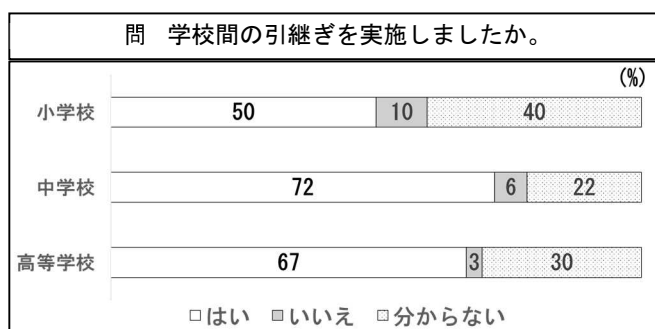


図5 学校間の引継ぎの有無

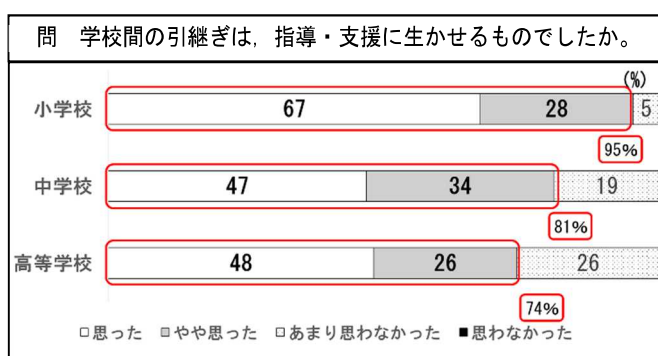


図6 学校間の引継ぎの有効性
(※引継ぎを実施した教職員の回答)

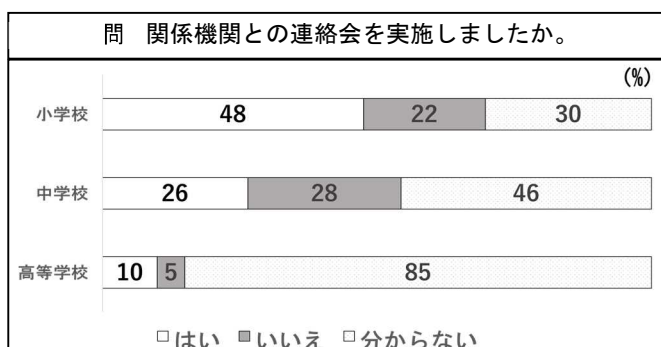


図7 関係機関との連絡会の有無

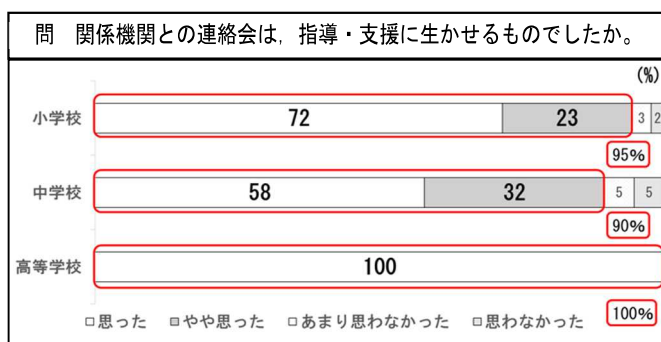


図8 関係機関との連絡会の有効性
(※連絡会を実施した教職員の回答)

(4) 様々な計画等の作成への意識調査

様々な計画等の作成について、「大変負担」、「やや負担」という割合は、小学校75%、中学校88%、高等学校92%であった（図9）。

自由記述では、「計画内容の重複があったり、作成する計画が多かったりする」、「作成した計画が活用されていない」、「小中高と一貫した内容で統一されたらよい」などの意見が挙げられていた。引継ぎの必要性や有効性については、多くの教職員が認識しているが、そのための様々な計画等の作成に負担を感じている教職員が多く、計画の内容やその作成の方法等についても検討の余地があると思われる。

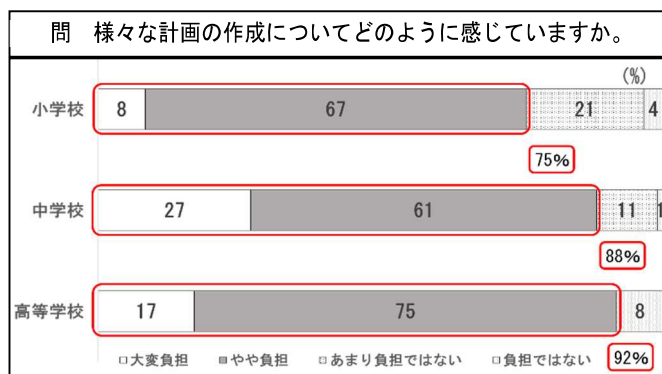


図9 様々な計画等の作成への意識

4 校内外における指導・支援の接続に関する課題及び対応

(1) 引継ぎ資料の情報について

[課題]

- 引継ぎ資料等と実態に差があり、指導に支障をきたすことがある。
- 引継ぎをする側と引継ぎを受ける側とで必要としている情報に相違がある。
- 引継ぎ資料が作成されていても、活用が不十分である。

[対応]

「児童生徒理解・支援シート（参考様式）」を基に、情報を一つにまとめ、情報を共有するツールを作成する。また、そのツールを活用した引継ぎ・連携のモデルプランを提案し、引継ぎ・連携の具体的な在り方を示すことが必要であると考え。既存の各学校独自の計画やシートの活用上の課題を踏まえ、作成の進め方とともに、実際にどのように引継ぎ・連携に活用していくかを具体的に示す。

(2) 引継ぎのための資料作成や時間確保について

[課題]

- 学年末の業務や職員の異動等で引継ぎの時間設定が難しい。
- 様々な計画等の内容に重複がある。
- 教職員の8割以上が様々な計画等の作成に負担を感じている。

[対応]

計画の作成等に係る負担軽減のために、学年間・学校間で確実に指導・支援の引継ぎができるようなツールの内容を検討し、記入・活用上の留意点や記入例を併せて示す。また、複数の職員で情報を共有していく実践例を示す。

(3) 連携の在り方や具体的な連携の進め方について

[課題]

- 学校間や関係機関との連携について、具体的な進め方が分からない状況がある。

[対応]

学校間の引継ぎ会の在り方や関係機関との連携の進め方について、モデルプランを提案する。

1 情報を共有・協働するためのツール「SSPシート」

(1) SSPシートとは

SSPシートは、先述の文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」の中で示された「児童生徒理解・支援シート（参考様式）」を参考に、当センターで作成したものである。SSPシートは、「Sustainable Support Planシート」の頭文字を取った名称で、「児童生徒への支援を切れ目なくつなげていくこと」や「効果的な支援のために教職員が計画の作成・活用を継続していくこと」を意図した名称である。このシートは、支援の必要な児童生徒一人一人の状況を的確に把握するとともに、当該児童生徒の置かれた状況を校内や関係機関と共有し、組織的・計画的に支援を行うことを目的として、学校が組織的に作成するものである。

支援が必要な児童生徒が抱える課題には様々な要因・背景があり、教育のみならず、福祉、医療、労働等の関係機関が相互に連携協力し、中長期的な視点で一貫した支援を行うことが求められる。また、児童生徒の抱える背景や状況が複雑で、長期的な支援が必要である場合や、一度支援が必要でなくなった後、再度支援が必要となる場合もあるため、進学先・転学先の学校で以前の情報が共有されることは非常に重要である。

SSPシートを活用することで、次のことが期待できる。

- ・ 支援が必要な児童生徒に関する必要な情報を集約することができる。
- ・ 支援の計画について、学校内や関係機関で共通理解を図ることができる。
- ・ シートを進学先・転学先の学校へ引き継ぐことによって、一貫した継続的な支援ができる。
- ・ 複数の計画やシートを統合し、電子化することで、資料作成や引継ぎ・連携における業務の負担を軽減することができる。

(2) 作成の対象

SSPシートは、「障害のある児童生徒」、「日本語の習得に困難のある児童生徒」、「不登校児童生徒」を対象として作成する。児童生徒が支援の必要な状況となった場合のほか、支援の必要な児童生徒の転入学があった場合や、それが予定される場合に作成することとなる。

ア 障害のある児童生徒の場合

特別支援学校に在籍する児童生徒、小学校及び中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒については、一人一人のニーズを正確に把握するとともに、関係機関と連携し、一貫した的確な教育的支援を行うためにSSPシートを作成する。また、特別支援学級での指導や通級による指導を受けていない児童生徒であっても、医学的な診断の有無にとらわれず、児童生徒の教育的ニーズを踏まえ、校内委員会等により「支援の必要がある」と判断された児童生徒も作成の対象に含める。なお、SSPシートは、個別の教育支援計画の内容を含んでおり、現在、各学校で作成している計画に代わるものとなる。

なお、個別の指導計画については、「教育課程を具体化し、障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの」であり、SSPシートの内容には含まれていない。そのため、別途、各学校や地域の実情に応じた様式によって作成することが必要となるが、SSPシートと共通する内容等については様式を整理・精選していくことで業務負担の軽減につながる。

イ 日本語の習得に困難のある児童生徒の場合

日本語の習得に困難のある児童生徒については、日本語の能力や学校生活への適応状況を含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等について校内での情報共有を進め、連携した指導や支援に取り組んでいく際にSSPシートを作成する。在籍学級以外の教室で行われる指導について日本語習得のための特別の教育課程を編成・実施する場合には、SSPシートでまとめた児童生徒の情報を指導計画の作成に生かすことができる。

ウ 不登校児童生徒の場合

基本的には、連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者についてSSPシートを作成する。不登校児童生徒への支援は早期から行うことが重要であり、予兆への対応を含めた初期段階から情報を整理し、組織的・計画的な支援につながるようにする必要がある。そのため、30日という期間にとらわれることなく、前年度の欠席状況も含め、遅刻、早退、別室登校等の状況や不登校の前兆等を鑑みて、早期の段階からSSPシートを作成することが望まれる。なお、SSPシートは、不登校児童生徒の個別支援計画の内容を含んでおり、現在、各学校で作成している計画に代わるものとなる。

なお、支援の結果、児童生徒が継続的に登校できるようになった場合においても、SSPシートを活用して月別の遅刻、早退、欠席等の状況を継続して記録し、引き継いでいくことが一貫した計画的な支援を行う上で非常に大切である。

(3) SSPシートの構成、内容

SSPシートは表1のように、「共通シート」、「学年別Aシート」、「学年別Bシート」、「協議シート」の4種類のシートで構成されている（詳細は、巻末資料を参照）。

SSPシートは、先述の「児童生徒理解・支援シート（参考様式）」で示された4種類のシートの形式を生かしながら、特別な配慮が必要な児童生徒への支援を想定し、当課で記入欄を一部変更したり、記入量の調整等の工夫を行ったりした。また、必要に応じて各学校で独自のシートを追加することも可能である。

表1 SSPシートの構成、内容

シート名	内 容
共通シート	基礎情報、学年別欠席日数等、支援を継続する上での基本的な情報、家族関係、特記事項
学年別Aシート	支援機関名等（校内・校外）、月別欠席状況等、欠席状況等に関する理由、次年度への引継事項
学年別Bシート	本人・保護者の状況・希望、本学年の目標、各学期の個別の支援計画（個別の教育支援計画、不登校児童生徒の個別支援計画）
協議シート	会の記録等（本人・保護者の意向、関係機関からの情報、協議内容等）

ア 共通シート

共通シートは、支援内容を検討する上で把握することが必要と考えられる、児童生徒本人の基礎情報を記入するシートである。

イ 学年別Aシート

学年別Aシートは、学校、家庭、関係機関等の主な支援やサービス内容を一覧で分かるようにしたものである。月別欠席状況は、主に不登校児童生徒について使用するものである。

ウ 学年別Bシート

学年別Bシートは、対象となる児童生徒の目標や支援内容等を随時追記し、具体的な支援の計画を記入するものである。個別の教育支援計画や不登校の個別支援計画の内容を含んでいる。

エ 協議シート

協議シートは、校内教育支援委員会、不登校対策委員会、教育相談、情報交換会、ケース会議などを行う場合に、複数の関係者で児童生徒の情報を整理・集約し、今後の支援について検討する際に活用でき、記録として残すためのシートである。

(4) 作成や活用に当たって

「障害のある子供の教育支援の手引」（令和3年6月）の中で、「個別の教育支援計画の活用等で学校種を超えた情報共有や引継ぎに取り組むことが重要であること」や「情報共有や引継ぎの際は、積極的にICTの活用を図ることにも留意すること」が示されている。このことも踏まえ、SSPシートは、特別な配慮が必要な児童生徒の支援開始から、継続的に情報をデータで蓄積していくものである。パソコンやタブレット端末等でのデータの入力、活用、蓄積を考えている（図10）。

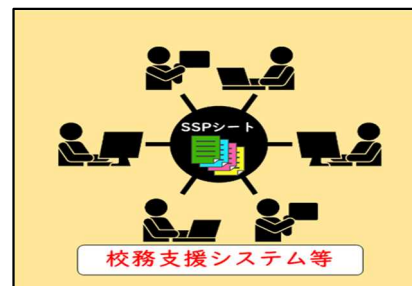


図10 活用のイメージ

作成や活用に当たっては、以下の点に留意する。

<作成に当たって>

[全般]

- ・ 作成者の主観的な判断を避け、客観的な事実を記入すること
- ・ 児童生徒の課題の背景には、家庭、友人関係、地域、学校など児童生徒の置かれている環境が相互に複雑に絡み合っていることが多いことから、環境との関係性も可能な限り記入すること
- ・ 全ての欄を記入するのではなく、必要な情報のみを記入すること

[共通シート]

- ・ 障害のある児童生徒については、障害の状態やこれまでの経過等について記入すること
- ・ 状況の変化に応じて随時、修正や追記をすること
- ・ 修正や追記を行った場合は、その期日や担当者まで記入すること
- ・ アセスメントの情報については、具体的な支援を行う際の根拠となるため、複数回アセスメントを実施した場合は、その推移についても記入すること

[学年別Aシート]

- ・ 支援機関に関する内容（支援内容や連絡先）や細かい欠席状況、本人の学習や健康状況等を記入することで、一貫した計画的な支援を行うことができるようにすること
- ・ 支援機関の担当者名については、可能な限り記入すること

[学年別Bシート]

- ・ 児童生徒の支援が次の学年でも継続して行うことができるよう、当該学年での支援の経過及び評価を明確に記入しておくこと
- ・ 支援の評価及び次年度への引継ぎ事項等をまとめ、担任・担当者の変更の有無にかかわらず、継続して支援を行うことができるようにすること

[協議シート]

- ・ 校内教育支援委員会、不登校対策委員会、教育相談、情報交換会、ケース会議などにお

いて、その都度支援の進捗状況を確認し、その場で合意・確認することができた事項について記録すること

- ・ 指導・支援の開始前で共通シートや学年別シートが作成されていない段階でも、協議シートで情報を整理・蓄積することはできるので、記録として積極的に作成すること

<活用に当たって>

- ・ 校務支援システム等を活用して、指導要録や出席簿、支援計画等の様々な表簿や支援計画等の共通する内容の記述を反映する等の工夫を行い、校務の効率化を図ること
- ・ 持続的な支援体制の確保と教職員の業務負担軽減の観点から、校内の複数の関係職員で情報共有や入力ができるようにすること
- ・ SSPシートに入力すべき新しい情報が生じたら、誰でもすぐに随時情報を追加できるように、データの保存場所を学校の状況に応じて工夫すること
- ・ 校内委員会やケース会議等では、SSPシートの各シートを会議用の資料として活用し、会のためだけに別途資料を作成するといった負担が軽減されるようにすること
- ・ 連携や引継ぎに当たってSSPシートを活用する際には、個人情報の保護が確保されることが不可欠である。その管理や使用の具体的な在り方について十分に検討をすること

2 引継ぎ・連携のモデルプランの提案

SSPシートを活用した指導・支援の引継ぎ・連携の在り方に関して、以下の(1)～(4)のモデルプランを提案する。

これらのモデルプランは、引継ぎ・連携を進めるためのものであると同時に、複数の職員で児童生徒の情報や指導・支援について共有することで、「特別な配慮が必要な児童生徒の指導・支援に多様な視点を反映し、より効果的な指導・支援につなげていく」ためのものでもある。

(1) モデルプランⅠ：指導・支援の開始

モデルプランⅠは、指導・支援の開始に向けて、担任や保護者、関係する教職員がSSPシートを活用しながらどのように連携を進めていくかを示したものである(図11)。

① 職員や保護者の気付きから、必要に応じて教育相談や情報交換を実施する。

② 担任は、教育相談の記録を協議シート

に記録したり、関係する職員から集めた情報を共通シートに記録したりする。

③ コーディネーターの役割を担う教職員は、支援の必要性の検討や指導・支援の開始に向けて必要に応じてケース会議等の企画運営を行う。

④ ケース会議では、会議資料として共通シート等を使用し、記録は協議シートを活用する。

指導・支援の開始に当たっては、本人や保護者と十分に対話をする。また、関係する職員で情報共有や話し合いを進めるなど、チームでの対応に努めることが大切である。

(2) モデルプランⅡ：学年間引継ぎ

モデルプランⅡは、SSPシートのデータを学年間の引継ぎにどのように活用していくかを示したものである(図12)。

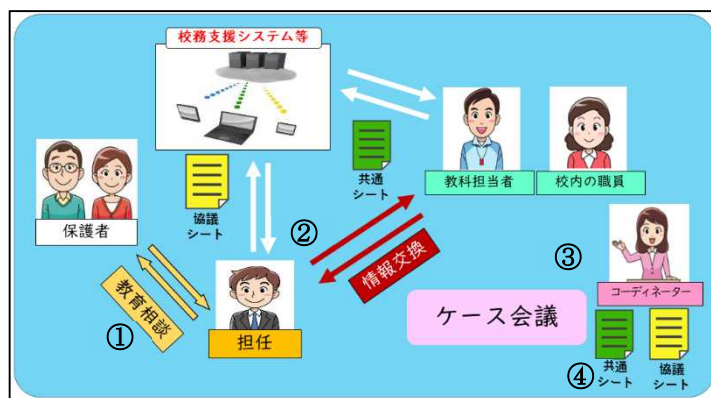


図11 モデルプランⅠ

- ① 旧担任は引継ぎをデータで行う。
- ② 新担任は、データを確認し、必要に応じて、旧担任と連絡を取り、情報交換を行い、学年別Bシートに新たな支援策を追加したり、必要に応じて支援策を変更したりする。
- ③ コーディネーターの役割を担う教職員はデータの管理を行い、必要に応じて担任や教科担当者と情報交換を行う。

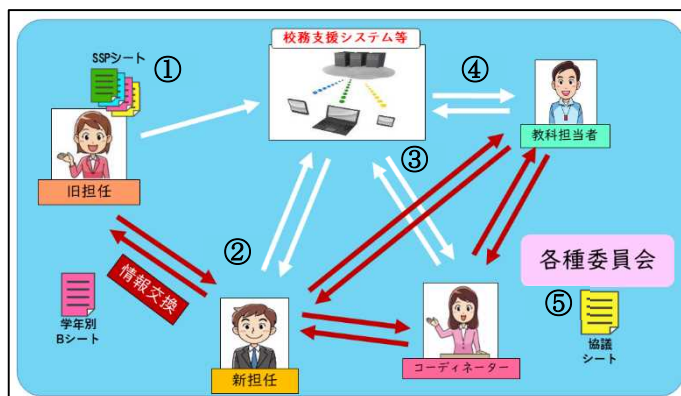


図12 モデルプランⅡ

- ④ 教科担当者は、データを確認し、必要に応じて担任と情報交換を行う。
- ⑤ 校内支援委員会、不登校対策委員会等を行う場合には、協議シートを使用する。

学年間の引継ぎを円滑に進めるためには、年間を通じた情報共有とその蓄積が大切である。

(3) モデルプランⅢ：学校間引継ぎ

モデルプランⅢは、SSPシートのデータを、学校間の引継ぎにどのように活用していくかを示したものである(図13)。

- ① 旧担任もしくは旧副担任等は、保護者に引継ぎの承諾を得る。
- ② コーディネーターの役割を担う教職員から進学先の学校へ、SSPシートをデータで引き継ぐ。
- ③ 進学先のコーディネーターの役割を担う教職員は、SSPシートのデータの確認を行い、担任や教科担当者へ周知する。

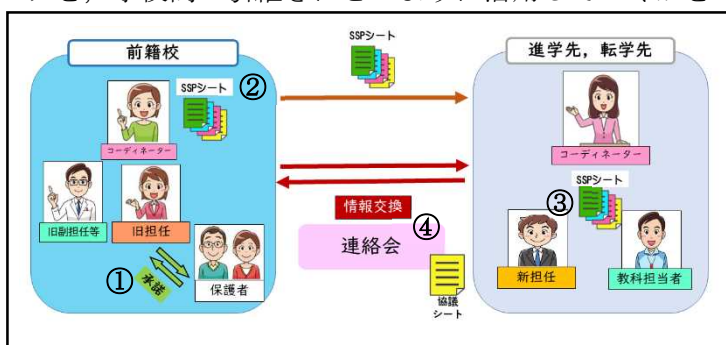


図13 モデルプランⅢ

- ④ 新担任は、データを確認し、必要に応じて、前籍校との連絡会を行う。連絡会では、SSPシートの協議シートを使用する。

学校間の引継ぎをSSPシートのデータで行うことで、進学先における新たな資料作成や引継ぎ・連携における業務負担を軽減したり、必要な時期に情報を共有したりすることができるようにする。転学に伴う学校間の引継ぎも同様に行う。

(4) モデルプランⅣ：関係機関との連携

モデルプランⅣは、SSPシートを活用した、関係機関との連携の進め方を示したものである(図14)。

- ① 担任は、保護者の承諾を得て、関係機関との連携を進める。
- ② SSPシートと関係機関が作成している支援計画を使用して、情報交換を行う。
- ③ 情報交換の内容は、協議シートや学年別Aシートにまとめ、校内で情報共有を図り、関係機関との連携を校内での支援につなげていくようにする。

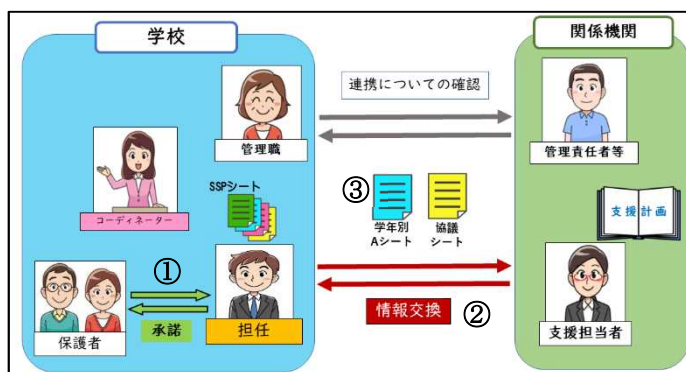


図14 モデルプランⅣ

第4章 モデルプランに基づいた実践

1 令和2年度の実践

(1) A中学校の研究協力員の実践

- ・ 知的障害特別支援学級在籍の3年生2人のSSPシートを作成し、モデルプランⅡ（学年間引継ぎ）を基に、教科担当者等との連絡会や学年部会等で支援内容の検討や共通理解を図った。
- ・ 校内の連携で使用したSSPシートを活用し、モデルプランⅢ（学校間引継ぎ）を基に、進学先の学校への引継ぎを行った。

ア 校内外の引継ぎ・連携に関する現状と課題

A中学校は、12学級（通常の学級10、知的障害特別支援学級1、自閉症・情緒障害特別支援学級1）の中学校で、特別な配慮が必要な生徒数は表2のとおりである。

1年生には、小学校時は特別支援学級に在籍し、中学校入学後、希望により通常の学級に在籍している生徒が他の学年に比べて多いため、学習面での支援や生活面での対応が特に課題となっている。2年生には、中国からの留学生が在籍しているが、1年次から入学しており、英語が話せ、日本語も上達してきているため、支援に関して特に大きな課題はない。不登校生徒については、改善傾向にある生徒が多い。

校内における連携では、特別な配慮が必要な生徒の情報共有や本人・保護者への共通した対応等、生徒指導部を中心に紙面や口頭での定期的な情報共有を行い、共通理解を図り、学年部任せにしない対応を全職員で行っている。A中学校は、特別支援学級の生徒や通常の学級に在籍する特別な支援が必要な生徒に複数の教職員で教科指導に当たっているため、情報を一元化して共有したり、具体的な対応や支援について共通理解をしたりする機会が必要である。この役割は本来、校内教育支援委員会が担うことになっているが、特に大きな課題のある生徒の支援に関することや就学に関する多くの時間が割かれ、他の生徒の日常的な支援に関する情報共有や共通した対応を確認することは難しい状況にある。また、連携の際に使用する資料が、引継ぎ名簿、指導要録、移行支援シート、個別の教育支援計画と多岐に渡っている。

進学先の高等学校との連携では、指導要録や移行支援シート等を活用して情報を引き継ぎ、中高連絡会や入学後の個別相談等を行っているが、中学校時代の生徒の様子や対応の情報等が少なかったり、高等学校側が必要とする情報が不足していたりする現状がある。

イ 実践Ⅰ「SSPシートを活用した資料の精選と共有」

(ア) 資料の精選

対象生徒の基礎情報、個別の教育支援計画の内容、知能検査の結果等をSSPシートにまとめることで、資料を精選した。また、対象生徒の問題行動への対応や必要な支援に関する情報を集約し、関係する職員と情報の共有を図った。SSPシートの作成は、研究協力員である担任が中心となって行った。実際の授業の様子や具体的な対応等の記載については、本来なら対応した職員がシートへ記載内容の追加をすることが望ましいが、今回は情報の共有

表2 特別な配慮が必要な生徒数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	13	4	0
2年	7	5	1
3年	10	5	0
計	30	14	1

※ 「特別支援」は、特別支援学級生徒と通常の学級の担任で支援が必要であると判断した生徒（令和2年5月1日現在）

や日常的な担当者間のコミュニケーションを図ることの意味もあり、担任が直接各教科担当者への聞き取りを行ってまとめた。

(イ) 複数の視点からの情報の有効性

複数の職員からの情報を基にしてSSPシートを作成したことで、担任がこれまで気付いていなかった対応や支援に関する新しい視点が明らかになった。そこで、A中学校では担任以外が生徒に関わる時間も多いため、情報共有を進め、各教科担当者が連携して共通の対応ができるようにした。

(ウ) 情報の共有と集約

校務用パソコンからアクセスできる共有フォルダ上にSSPシートのデータを保存し、関係する職員で閲覧や記載事項の追加ができるようにした。また、協議シートのデータの形式を一部変更して職員回覧用のシートとして保存し、共通した対応に関する情報の提供、成果のあった対応や今後の対応の方向性についての意見集約を共有フォルダのデータ上で行った。職員が任意の時間にデータを確認したり、意見を入力したりすることができるため、会議等を放課後に改めて設定せずに担当者間で連携を図ることができた。

ウ 実践Ⅱ「SSPシートを活用した学校間連携における情報共有」

(ア) 中高連絡会への参加

卒業生が進学している高等学校との連絡会では、高等学校が作成したSSPシートを基に情報交換を行った。同じフォーマットの資料を活用した連携は、煩雑さも軽減され充実した連絡会となった。

(イ) 高等学校への引継ぎ資料の充実

より多くの情報を高等学校へ引き継ぐために、引継ぎ資料として作成したSSPシートに生徒の情報を一つにまとめ、保護者とも連携しながら、引継ぎに活用した。

エ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- 生徒の様々な情報をSSPシートに一本化しまとめたことで、担任と教科担当者間の連携をスムーズに行うことができた。また、各シートに随時新しい情報が追加できるため、情報の積み重ねが容易にできた。
- SSPシートをネットワーク上のデータで情報共有を行った。データで情報共有をしたことで、関係する職員が閲覧・活用しやすく、一貫した対応について共有し、効果的な対応ができた。支援に関する会議を開くことなく、支援に関する情報共有ができ、業務改善につながった。
- 学校間引継ぎにおいて、中学校と高等学校で共通の様式であるSSPシートを活用した。共通の様式で生徒の情報を引き継ぐことで、資料も見やすく、情報の蓄積も容易であった。
- モデルプランで示された「複数の教職員でSSPシートの入力をする事」は難しかった。そのため、担任が教科担当者への聞き込みを行い、SSPシートに情報をまとめた。直接聞き取りを行ったことは、担任の負担にはなったが、より詳細な情報を集約できるという面があった。
- A中学校では、SSPシート以外に作成する資料が複数あるため、教職員の負担が大きい。特別な配慮を必要とする生徒のために作成すべき書類の精選等を進める必要がある。また、学校間の引継ぎの際の負担軽減のために、同じ校区内の学校だけでも共通して活用することを検討していく必要がある。

(2) B高等学校の研究協力員の実践

新入生5人のSSPシートを作成し、モデルプランⅢ（学校間引継ぎ）を基に、中高連絡会やケース会議を実施し、支援の検討を行った。

ア 校内における指導や引継ぎ等に関する現状と課題

B高等学校の特別な配慮が必要な生徒数は、表3のとおりである。中学校で特別支援学級に在籍していた生徒等を対象に、定期考査に向けた放課後学習や個別指導を行っている。授業では「休み時間中にトイレを済ませる」等の言葉掛けや机間指導を積極的に行い、私語等をする生徒へ授業に集中するよう指導に取り組んでいる。

「自分の得意・不得意気付きシート」を用いて全校生徒に調査した結果、「文章を読んで、要点がある程度分かること」、「授業中に、時間いっぱい集中して先生の話聞くこと」等、学習活動に苦手意識を感じている生徒が、1/3～半数程度いたため、開校当初より習熟度別での学習を実施していたが、授業方法や学習活動の見直しを検討している。

中学校との連携は、入学者選抜学力検査後の出身中学校の訪問や年2回の連絡会で情報交換を行っている。しかし、中学校訪問時の生徒情報が、年度当初、1学年会のみでしか共有されておらず、支援や対応の全校的な検討に時間を要する現状がある。

イ 実践Ⅰ「中高連絡会」

日 時： 令和2年8月24日（月） 9：30～13：00

場 所： B高等学校

参加者： B高等学校教諭3人（担任2人，特別支援教育コーディネーター1人），中学校教諭2人

内 容： 特別支援教育の視点からの新入生5人の情報交換（表4）

表4 中高連絡会での情報交換の内容（生徒aについて抜粋）

高等学校での様子等	中学校在籍時の様子等
<ul style="list-style-type: none"> 生徒aが、友人と共に授業妨害を行い、指導困難になることがある。 授業への取組に差がある。パソコンの授業ではタッチタイピングが早く積極的である。 他クラスの親しい生徒とは、良好な人間関係を築いている。 保護者は、学校の指導体制に協力的ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 後先考えずに行動するため、トラブルが多かった。 教師に対しての暴言が多く、生徒と教師の信頼関係の構築が難しかった。 交流学級の授業では、寝ていることが多かった。級友と関わりをもちたい気持ちがあるが、うまくコミュニケーションをとることが難しかった。 保護者と学校間の意見の相違もあったが、進級するにつれて信頼関係が構築できた。

中学校の教職員との情報交換を通して、生徒・保護者への支援，対応の仕方等，高等学校での指導・支援の参考になる情報を得ることができた。連絡会に参加した教職員は，得られた生徒や保護者に関する情報を，関係の職員で共通理解する必要性を感じるようになった。

表3 特別な配慮が必要な生徒数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	18	0	0
2年	19	0	0
3年	19	0	0
計	56	0	0

※ 「特別支援」は、障害の有無ではなく職員が支援が必要であると判断した生徒（令和2年5月1日現在）

イ 実践Ⅱ「校内での係会」

日 時： 毎週金曜日3校時

参加者： B高等学校教諭6人（カウンセリング・特別支援教育係）

内 容： 中高連絡会で得た情報を基にした、具体的な対応や支援策、支援体制等の検討
係会を重ねる中で、支援の緊急性の度合いから、支援策の検討を行う対象生徒の絞り込みを行い、より具体的に指導・支援の検討を進めていく係会になっていった。対象生徒に係する職員の特別支援教育に関する知識や理解に差があり、支援の共通理解や実践が難しい現状があったが、管理職の協力を得るなどして、支援体制の整備を進めることができた。

ウ 実践Ⅲ「ケース会議」

日 時： 令和2年12月1日（火） 14：00～16：00

場 所： B高等学校

参加者： B高等学校教諭4人（担任1人，学年部職員1人，部活動顧問1人，特別支援教育コーディネーター1人）

内 容： 生徒aの支援についての共通理解（表5）

表5 ケース会議での生徒aについての情報交換の内容

部活動顧問からの情報	担任からの情報
<ul style="list-style-type: none"> 生徒aは、地域のスポーツ少年団指導者としても指導力の高い部活動の顧問を厚く信頼している。 生徒aの現状を考慮すると、部活動で他の生徒と同じような指導を行っても効果が期待できない。「時間を掛けて部活動の意義を認識させていく」というスタンスで、段階に応じて指導を続けている。 県大会等を生徒a自身が「自分の力量を知り、練習の必要性を理解する」という機会にしたいが、課題提出等が間に合わず、県大会に出場できていない現状がある。 保護者とは密に連絡を取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒aから聞いた話（情報）では、保護者が学校へ協力的でない様子がうかがえ、保護者へ連絡が取りにくい現状である。信頼関係の構築に苦慮している。 新型コロナウイルス感染防止対策に伴う休校時は、落ち着きのない様子が見られた。親しい生徒に「今のグループと付き合い続けているとよくない」と進言されているためか、友人関係に変化があり、特定のグループと一緒に行動する場面は少なくなった。 特定の職員に対しては、信頼感をもって接する様子が見られる。

ケース会議を通して、関係する職員の情報共有を進めることができた。生徒a自身の自己評価の機会を設定したり、交友関係の改善を図ったりするといった対応について共通理解を行った。また、「子育ての苦勞に共感し、信頼関係を構築する」という保護者への対応の基本的姿勢を確認することができた。

エ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- SSPシートで整理された前籍校での支援に関する情報は、高等学校における指導・支援の検討において非常に有益だった。
- 関係する職員が集まって、より詳細に生徒の情報を共有したり、具体的な支援方法を検討したりするモデルプランの有効性を検証することができた。
- 校内LANの共有フォルダ上でデータを共有し、情報の入力や情報の共有ができたことは、B高等学校のように学科ごとに職員室が分かれている学校では非常に有効であった。
- B高等学校で使用している個別の教育支援計画よりも、SSPシートは記入する情報量が多い。そのため、職員間での分担や必要に応じて記入するなど、対応の検討が必要である。

(3) C小学校の研究協力員の実践

自閉症・情緒障害特別支援学級在籍の6年生児童bのSSPシートを作成し、モデルプランⅢ（学校間引継ぎ）とモデルプランⅣ（関係機関との連携）を基に、進学先の中学校や利用している放課後等デイサービス事業所との連携の会に取り組んだ。

ア 学年間・学校間の引継ぎ，関係機関との連携についての現状と課題

C小学校は令和2年12月15日現在，1000人を超える児童が在籍しており，特別な配慮が必要な児童数は，表6のとおりである。

学年間の引継ぎは，4月に行う旧担任と新担任との引継ぎ会で，学校間の引継ぎは，幼・保・小連絡会や小・中連絡会などで行っている。

C小学校は，支援の対象となる児童数が多く，全ての児童を把握しにくいことが課題となっている。特別支援教育校内委員会を定期的開催しているが，時間も限られているため，児童の様子報告のみで終わり，支援の在り方について十分議論をすることは難しい状況がある。また，学年間の引継ぎについても，統一した資料がないため，引継ぎ内容も担当者任せとなっている部分が多い。

関係機関との連携については，それぞれの担任で必要に応じて行っている現状があり，児童が利用している関係機関で受けている支援内容については情報の共有が図られていないことや学校と関係機関が連絡を取り合うことなく1年間が過ぎてしまうケースもあることなどが課題となっている。

イ 実践Ⅰ「放課後等デイサービス事業所への参観訪問」

研究協力員は，校内で放課後にデイサービスの担当者が迎えに来る姿はよく見ていたものの，これまで情報交換を行ったことはなかった。そこで，夏季休業中に児童bが利用している放課後等デイサービス事業所へ連絡し，訪問する機会を設け，関係機関との連携に着手した。

訪問当日は，児童bの様子や担当者との面談を行い，学習支援についての情報を得ることができた。学校での指導や支援内容についての情報を関係機関と共有し，訪問後，SSPシートの協議シートに記入することで，児童bの実態や関係機関の支援の現状について把握・整理することができた。

ウ 実践Ⅱ「関係機関との連携の会（モニタリング会議）」

実施日： 令和2年12月14日（月） 放課後

場 所： C小学校

参加者： 担任，保護者，相談支援事業所，放課後等デイサービス事業所，ことばの支援センター，進学先の中学校の特別支援教育コーディネーター

児童bについて関係機関での様子や今後の進路について情報交換を行うという目的で，担任から相談支援事業所にモニタリング会議を開きたい旨を伝え，保護者，関係機関の協力を得ながら日程調整して実施した。会議の中で話題になったことや確認した情報等は協議シートにまとめた（表7）。

表6 特別な配慮が必要な児童数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	35	0	0
2年	26	2	0
3年	33	2	0
4年	23	0	0
5年	14	3	0
6年	16	6	0
計	147	13	0

※ 「特別支援」は，特別支援学級児童と特別支援教育校内委員会で支援が必要だと判断された児童（経過観察児は除く）（令和2年12月15日現在）

表7 会議の中で話題になったことや確認した情報等（児童bの「協議シート」より抜粋）

機関・分掌名	主な情報共有の内容
担任	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を楽しんでいる。 学習面は、交流学級の進捗どおり進んでいる。苦手な算数については、担任で支援している。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 本人の自己肯定感を高めていきたい。 学習に更に取り組んでほしい。公立高校に進学してほしい。
放課後等 デイサービス 事業所	<ul style="list-style-type: none"> 利用当初に比べるとストレスが軽減され、自信も付いてきている。 宿題の支援をしている。苦手な学習に対して嫌がることがある。 漢字の書字については、読み仮名を付けてから書くことで、自分で考える習慣が身に付き、成果が上がっている。
ことばの 支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 人との距離感、声の大きさに課題があるため、月1回、45分、個別指導で気持ちや感情を伝えることや、場にふさわしい行動がとれるようソーシャルスキルトレーニングを行っている。
中学校 特別支援教育 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> 公立高校入試に向けて、小学校3、4年生の内容を身に付けてほしい。 数学は、大問1を解くために、比や図形及び中1の正負の数といった基本的な知識が必要である。 部活動については、用事等で休むのは構わないとしている。以前ほどの厳しい上下関係はなくなっている。

特に学習面について、関係機関が行っている支援内容が参考になった。児童の実態に合わせた課題設定の必要性を改めて感じたため、その後の小学校での指導に反映するようにした。また、保護者も中学校の特別支援教育コーディネーターから、進路等についての情報を詳細に聞く機会ができ、中学校への入学に期待を寄せていた。このような機会を設けたことで、各関係機関が同じ方向性を持ちながら児童に関わることができるようになった。

エ 実践Ⅲ「中学校への引継ぎに向けた連携の会」

実施日： 令和2年3月9日（火） 放課後

場 所： C小学校

参加者： 担任，保護者，放課後等デイサービス事業所，相談支援事業所

12月のモニタリング会議後の支援状況や進学先の中学校への引継ぎ事項の確認を行った。また、中学校への引継ぎにはSSPシートを活用することを確認した。もう少し早い時期に実施したかったが年度末ということもあり、保護者，関係機関，学校間での日程調整が難しかった。リモートでの会の実施等についても、今後、検討する必要がある。

オ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- モデルプランに基づいて進学先の学校や関係機関との連携に取り組んだことで、保護者の安心感や児童へのよりよい支援につながった。
- 支援に関する情報や連携の記録等は、SSPシートを活用することで、一括して整理・蓄積ができ、引継ぎに活用できた。
- 関係機関等との連携を負担なく継続していくためには、会の回数や日時の設定を工夫したり、対面での会を設定しなくても情報共有や連携が図れるような取組を検討したりする必要がある。

2 令和3年度の実践

(1) D小学校の研究協力員の実践

- ・ 通常の学級に在籍している1年生のSSPシートを作成し、モデルプランⅠ（指導・支援の開始）を基に、担任と特別支援教育コーディネーターが連携し、指導・支援の開始に取り組んだ。
- ・ 知的障害特別支援学級在籍の6年生3人のSSPシートを作成し、モデルプランⅢ（学校間連携）を基に、進学先の中学校への具体的な引継ぎの方法について、双方の特別支援教育コーディネーターが連携して検討を行った。
- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級在籍の6年生1人のSSPシートを作成し、モデルプランⅣ（関係機関との連携）を基に、関係機関との連携に関する情報の一本化に取り組んだ。

ア 校内外の引継ぎ・連携に関する現状と課題

D小学校は、9学級（通常の学級6，知的障害特別支援学級1，自閉症・情緒障害特別支援学級2）の小学校で、特別な配慮が必要な児童数は表8のとおりである。

特別な配慮が必要な児童に係る支援計画等は、校内LANの共有フォルダ上で作成し、活用している。年々、特別な配慮を必要とする児童は増加傾向にあり、担任によっては複数の計画を作成する必要があり、負担になっている現状がある。

D小学校の児童が進学する中学校区内には、D小学校を含む3小学校がある。D小学校と中学校との引継ぎは、6年担任と必要に応じて特別支援学級担任が中学校を訪問し、移行支援シートや個別の支援ファイル等を活用して行っている。

D小学校には、放課後等デイサービスを利用している児童が12人おり、利用先は四つの事業所に渡っている。年に1～2回、相談支援事業所が中心となってモニタリング会議が行われ、担任と特別支援教育コーディネーターが出席している。会議の記録や協議された内容については、特別支援教育コーディネーターが会の記録を取って資料としているが、放課後等デイサービス事業所ごとに資料保存を行っており、個々のデータとしては保存されていない。

イ 実践Ⅰ「SSPシートを活用した指導・支援の開始」

例年、幼稚園等から移行支援シート等での引継ぎがあった児童については、担任が保護者と連携を取りながら個別の教育支援計画等を作成している。令和3年度、移行支援シート等による引継ぎがあった児童はいなかったが、担任が特別な配慮の必要性を感じた1年生の児童について、学級担任と特別支援教育コーディネーターで連携し、支援の在り方について検討を行ったり、特別支援学校の巡回相談を活用して、専門的な立場からの助言をもらったりした。その際の記録は協議シートを活用し、巡回相談をきっかけにケース会議等を重ね、担任と特別支援教育コーディネーターが中心になって支援内容について検討を進めた。校内の教職員でSSPシートを分担して作成し、協働して支援の開始につなげることができた。

表8 特別な配慮が必要な児童数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	3	0	0
2年	4	0	0
3年	4	0	0
4年	4	0	0
5年	6	1	0
6年	6	0	0
計	27	1	0

※ 「特別支援」は、特別支援学級児童と特別支援教育校内委員会で支援が必要であると判断された児童（令和3年5月1日現在）

ウ 実践Ⅱ「中学校との引継ぎ・連携」

6年生の特別支援学級の保護者を対象として、進学へ向けて具体的な見通しをもってもらい、不安の軽減につながるよう進学先の中学校の見学会を企画した。保護者からは、概ね好評で「具体的な中学校での学習や生活についてのイメージがもてた」、「中学校の特別支援学級の担任へ直接質問できてよかった」等の意見が挙がった。



写真1 中学校との情報交換

見学会終了後に、中学校の特別支援教育コーディネーターと学校間の引継ぎや連携の課題について情報交換を行った（写真1）。中学校においても引継ぎに関する課題を抱えていることが分かり、円滑な引継ぎのために、D小学校で作成したSSPシートのデータを活用して、情報を中学校へ引き継ぐことを確認した。今後、中学校でのSSPシートの活用についても検討が進められる予定である。

エ 実践Ⅲ「関係機関との連携に関する情報の一本化」

モニタリング会議等で、放課後等デイサービス事業所や相談支援事業所、保護者と共有した情報をSSPシートの協議シートに入力し、これまで一本化されていなかった記録を一つにまとめることができた。複数の資料を一つにまとめることで、児童に関する情報の把握や引継ぎのしやすさにつながった。また、D小学校における関係機関との連携においては、情報交換をメインとして行っているため、協議シートの様式データを図15のように修正して記録を取った。必要な情報のみを精選して記録したことで、連絡会に参加できない教職員との情報共有をコンパクトに行うことができた。

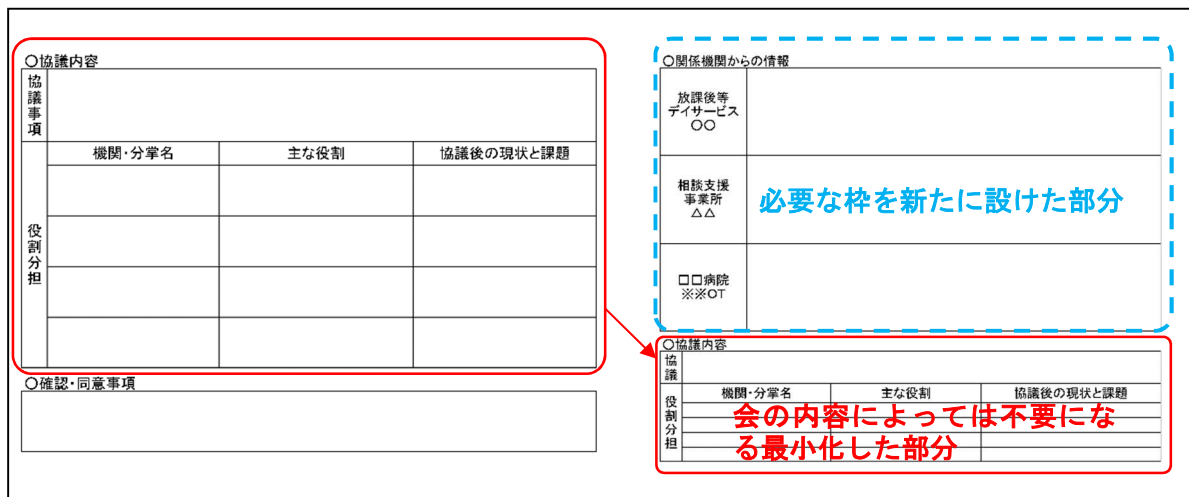


図15 協議シートの様式データの修正

オ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- SSPシートを活用したことで、支援を始めた経緯や関係機関と共有した支援に関する情報をデータとして一本化することができた。
- SSPシートをデータで蓄積したり様式を工夫したりしたことで、校内での情報共有や学校間、関係機関との連携を、より円滑に進めることができた。
- 学校間の引継ぎを充実させるために、SSPシートを同じ中学校区内で共通のツールとして活用できるように、更に共通理解を進めていく必要がある。

(2) E 中学校の研究協力員の実践

- ・ 不登校のため支援が必要である通常の学級に在籍する2年生の生徒cのSSPシートを作成し、モデルプランⅡ（学年間引継ぎ）を基に、教科担当者等との連絡会や学年部会等で支援の在り方の検討や共通理解を図り、連携した支援に取り組んだ。
- ・ 生徒の変容から支援の内容や対応方法について評価、改善を行い、SSPシートに反映させ、学年部の教職員での連携に取り組んだ。

ア 校内の引継ぎ、連携についての現状と課題

E 中学校は、10 学級（通常の学級 8，知的障害特別支援学級 1，自閉症・情緒障害特別支援学級 1）の中学校で、特別な配慮が必要な生徒数は表 9 のとおりである。

不登校の生徒は、小学校時より継続した状況にあることが多いが、E 中学校には適応指導教室が設置されており、リソースとして活用しやすい状況にある。そのため、不登校といった何らかの特別な配慮が必要な生徒が転入してくるケースは少ない。

E 中学校では、週 1 回定期的に開催される企画委員会や生徒指導部会を中心に、特別な配慮の必要な生徒の対応等について、全教職員で共通理解を図っている。また、ここ数年間、学年担任制をとっており、複数の教職員で対応するという意識が全教職員に定着してきている。

一方で、個別の教育支援計画や教育相談カードなど、生徒の情報を共有するための資料を作成しても形だけのものになっており、必要な情報が教職員、保護者、関係機関等でうまく共有されず、指導・支援に十分に活用しきれていないという課題がある。

イ 実践 I 「SSPシートの作成と情報の共有」

(ア) 関係者からの情報収集と支援の在り方の整理

2 年生の生徒 c については、研究協力員が 1 年次も同じ学年部であったため、生徒の状況や支援内容をある程度理解していたが、より詳しい情報を収集するため旧担任と情報交換を実施し、これまでの関わりや必要な支援について詳細な引継ぎを行った。また、生徒 c は保健室登校をしており、養護教諭と過ごす時間が多いこと、部活動顧問である美術科担当教諭が生徒 c と比較的うまく関わっていることなどから、それぞれから聞き取りによる情報収集も行った。基礎情報や個別支援計画の内容、前年度からの引継ぎ事項、聞き取りから得られた情報を SSPシートにまとめ、必要な情報と支援の在り方を整理した。

(イ) SSPシートを活用した情報共有

a 学年部会

日 時： 8 月 21 日（月） 15：40～16：40

場 所： E 中学校

参加者： 担任を含む 2 学年部教諭 6 人，養護教諭

夏季休業中に作成した SSPシートを基に、SSPシートについての共通理解と生徒 c の現状についての情報交換を行い、今後の支援や教職員の連携の在り方について確認を行った。

表 9 特別な配慮が必要な生徒数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1 年	5	5	0
2 年	2	5	0
3 年	3	3	0
計	10	13	0

※ 「特別支援」は、特別支援学級の生徒と通常の学級の担任で支援が必要であると判断した生徒（令和 3 年 5 月 1 日現在）

b 教科担任，養護教諭との連絡会

実施日： 10月13日（水） 11：45～12：35

場 所： E中学校

参加者： 担任，社会科担当教諭，養護教諭

生徒cの登校への気持ちが，文化祭や修学旅行に向けて高まってきている様子が見られたことから，SSPシートを基に今後の支援についての共通理解を行った。参加した教職員が事前にSSPシートから情報を得ていたことで，円滑に具体的な支援内容等の共通理解ができた。

ウ 実践Ⅱ「支援や関わりの共有による生徒の変容」

(ア) 文化祭の参加に向けての取組

自分の思いを担任に伝えることは苦手だが，養護教諭には伝えることができる様子が見られる。また，特定の友人と一緒にあれば比較的落ち着いて活動に参加できることから，班編製の工夫をし，5校時に養護教諭が誘導し教室に入れるように支援を行った。半分ほどの参加であったが，班員の言葉掛けにより，一緒にモザイクアートの制作に取り組み，そのまま教室で帰りの会に参加して下校できるようになるなどの改善が見られた。

文化祭当日は，保健室に登校した後，朝の会から終日文化祭に参加することができた。また，給食を教室で食べることもできた。文化祭後は疲れからか少し登校の機会が減った。

(イ) 修学旅行事前学習の取組

活動参加後は，疲れが見られ欠席することもあったが，修学旅行に向けての意欲が高いことから，これまで有効だった手立てや新たな支援内容をSSPシートに反映させ，共通理解を行った。養護教諭の誘導で教室に入ることで，授業だけでなく教室で給食を食べることが2回できた。学級の生徒に事前に生徒cの現状を伝えておくことで，班決めや部屋決め，バスの座席等に配慮が見られるようになったので，生徒cは自主研修計画の話合いに参加でき，修学旅行にも，同伴した教職員の言葉掛けや学級の生徒の配慮により参加することができた。

(ウ) その他の学習活動の参加に向けた取組

教科担当者の連絡会での情報共有で出された「テストを受ける様子がない」のは，本人のプライドの高さからではないかという意見を基に言葉掛けの工夫を行ったが，テスト用紙の提出には至らなかった。しかし，高校進学に向けて学習面への意欲は見られつつあるので，支援の在り方を再検討する必要がある。

エ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- 複数の教職員がもっている情報の整理や指導・支援の経過等の記録を行うに当たり，SSPシートの活用は効果的であった。
- SSPシートに基づいて関係教職員が一貫した対応を行うことで，特別な配慮が必要な生徒への効果的な支援に取り組むことができた。
- SSPシートを校内で活用していくためには，煩雑になっている作成すべき複数の書類の精選や統合を行う必要がある。
- 今後，学校間の引継ぎにSSPシートを活用するためには，SSPシートのメリットや必要性について保護者の理解を求めていく必要がある。

(3) B 高等学校の研究協力員の実践

- ・ 令和2年度に作成した2年生のSSPシートを継続的に活用した。
- ・ 新入生7人のSSPシートを作成し、モデルプランⅢ（学校間引継ぎ）とモデルプランⅣ（関係機関との連携）を基に、中高連絡会やケース会議を実施し、支援の検討を行った。

ア 学年間・学校間の引継ぎに関する現状と課題

特別な配慮が必要な生徒数は表10のとおりであり、令和2年度にSSPシートを作成した5人分のデータの学年間の引継ぎについては、校内LANで情報共有を行った。また、特別支援教育係や新旧担任で、SSPシートを基に個別の指導計画の作成や具体的な支援策の検討を行った。

令和3年度の新入生については、21人の移行支援シートが出身中学校から提出されている。中高間の連携は、高等学校入学者選抜試験後の中学校訪問や年2回の連絡会で情報交換を行っている。しかし、高等学校が必要とする情報が得られないことがあり、対象生徒への支援に生かすまでに時間を要することも多い。そこで、昨年度から特別な支援を要する生徒に係る中高連絡会を企画し、支援情報の共有や支援体制の構築を目指している。

表10 特別な配慮が必要な生徒数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	23	0	0
2年	16	0	0
3年	10	3	0
計	49	3	0

※ 「特別支援」は、障害の有無ではなく職員が支援が必要であると判断した生徒（令和3年5月1日現在）

イ 実践Ⅰ「令和2年度に作成したSSPシートの継続的活用」

SSPシートのデータを校内LANで情報共有することで、生徒dへの支援や対応等（表11参照）について、関係する職員で共通理解して取り組むことができた。また、通級による指導の内容や経過等についても情報を共有することができた。

表11 SSPシートを活用した協議内容（生徒dについて一部抜粋）

主な課題	協議後の支援内容
① 片付けは苦手で机やカバンの中が整理整頓できず、プリントの紛失が多い。 ② 課題の提出が遅れる。また、未提出もある。	① 配布プリントの種類や提出日等の情報を担任と教科担当で共有するようにする。 ② 苦手意識のある教諭への提出物を遅延（未提出）することが分かった。担任を介しての提出を試みる。

ウ 実践Ⅱ「中高連絡会の実施」

日時： 6月24日（金） 13:30～15:00

参加者： 高等学校教諭4人，中学校教諭5人

内容： 特別支援教育の観点からの新入生7人の情報交換

特別な支援を要する新入生及び移行支援シートの提出数が多く、連絡会は中学校時の具体的な支援体制や指導経緯を引き継ぐ有意義な場となった。本会の記録については、各担任が校内LANにあるSSPシートのデータに追記をし、関係する職員で情報共有を行った。出身中学校からSSPシートで引継ぎを行った生徒eの情報交換の内容は、表12のとおりである。モデルプランⅢに基づき、新担任は旧担任（中学校特別支援学級担任）と詳細な情報交換を行い、中学校での効果的な支援を生かしながら、高等学校における支援を開始することができた。

表 12 中高連絡会での情報交換の内容（生徒 e について抜粋）

主な内容	高等学校における支援開始後の生徒の様子
① 高校入学時に送付された S S P シート記載情報の確認を行う。	① 特に困っていることやトラブル等はなく充実した生活を送っている。
② 交流学級で過ごすことに問題はないが男子との関わりが苦手な面がある。	② 在籍学級は男子13人，女子2人の少人数編制で，生徒同士の交流は多い。
③ 定期的な言葉掛けや私物を整理する時間を月ごとに確保する支援を行っている。	③ 中学校での支援を継続することで，私物管理やロッカー整理等ができています。

エ 実践Ⅲ「ケース会議の実施」

日 時： 10月15日（金） 14：00～15：00

場 所： B高等学校

参加者： 高等学校教諭3人，特別支援学校教諭1人

内 容： 生徒 f の現在の様子と今後の指導・支援の検討（表13）

今後，Web会議システムを活用したケース会議も想定していたため，実践Ⅲにおけるケース会議では，S S P シートのデータをタブレット端末で見ながら会議を行った（写真2）。会議に参加できなかった生徒 f が所属する部活動の顧問からの情報や養護教諭のもつ情報など，様々な視点からの情報を集めて支援を検討することができ



写真2 タブレット端末を活用した会議の様子

た。また，B高等学校の巡回相談を担当している特別支援学校の教諭からの専門的なアドバイスがあり，今後の指導・支援をより有効なものにすることができた。

表 13 ケース会議での情報交換の内容（一部抜粋）

現在の様子等	今後の指導・支援
① 入学後，「自己肯定感の低さ」「対人関係の構築の難しさ」を訴える。	①② 通級による指導の受講希望があり，生徒本人・保護者の願いを聞き取り，指導の開始に向けて計画途中である。
② 1学期末の教育相談時に，保護者，生徒本人へ通級による指導を勧める。	③ 合宿所の入所へ向けて，具体的な生活に関する指導・支援が必要である。
③ 2月に合宿所へ入所予定である。	

オ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- 中学校との引継ぎを行い，高等学校入学以前の情報も含めて S S P シートにまとめたことで，学校間引継ぎを効果的に進めることができ，高等学校での円滑な支援の開始へつながった。
- モデルプランを基に中高連絡会やケース会議を実施したことで，校内の教職員や関係機関といった様々な視点から指導・支援について検討・整理を行うことができた。こうした取組を通じて対象生徒に関係する教職員での情報の共有や指導・支援に関する共通理解を行うことができ，生徒や保護者への効果的な対応へつながった。
- S S P シートへの情報記入について，複数の教職員で分担できないことがあった。S S P シートへ記入する情報の精選や，情報記入に関する業務分担の工夫等について，今後，検討が必要である。

(4) F小学校の研究協力員の実践

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している3年生児童gのSSPシートを作成し、モデルプランⅣ（関係機関との連携）を基に、保護者や関係機関（相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所）との連携に取り組んだ。

ア 校内における情報共有や引継ぎ、関係機関との連携についての現状と課題

F小学校は、14学級（通常の学級11、知的障害特別支援学級1、自閉症・情緒障害特別支援学級2）の小学校で、特別な配慮が必要な児童数は、表14のとおりである。

特別な支援が必要な児童が多い学級においては、担任が十分に情報や実態等を把握できていなかったり、保護者等から得た情報を担任しか把握しておらず、特別支援教育コーディネーターといった他の教職員と共有されていなかったりする。また、特別支援教育校内委員会や校内就学支援委員会が定期的で開催されているが、会の時間が限られていることもあり、児童の様子や報告のみで終わり、具体的な支援について議論する時間が少ない現状である。引継ぎについては、主に個別の指導計画を活用して引継ぎを行っているが、計画に記載されている以外の内容については、担当者任せとなっている。

関係機関との連携における課題として、児童が利用している関係機関でどのような支援を受けているかといった情報の共有が担任と特別支援教育コーディネーター間で図られていないことが挙げられる。また、学校と関係機関が連絡を取り合うことなく1年間が過ぎてしまうケースもある。

イ 実践Ⅰ「関係機関との連携の会（モニタリング会議）」

実施日：11月4日（木） 放課後

場 所：F小学校

参加者：保護者、相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所、交流学級担任、担任

令和3年度2回目（1回目は6月に実施）の児童gについてのモニタリング会議において、保護者の了解の下、SSPシートを活用した。F小学校からは、6月以降の変化や成長、周囲とのトラブルの指導後の変容等について情報提供を行った。関係機関からは、放課後等デイサービス事業所が行っている児童gの特性への具体的な対応や支援内容について情報提供があった。

モニタリング会議で話題になったことや新たに把握した情報等をSSPシートの協議シートに記録し、関係機関との連携に関する情報を整理した。モニタリング会議を行ったことで、関係機関と連携した指導・支援の方向性が明確になり、小学校での効果的な取組につなげることができた。

ウ 実践Ⅱ「放課後等デイサービス事業所への参観訪問」

小学校での児童gの支援に生かすために、11月のモニタリング会議後に放課後等デイサービ

表14 特別な配慮が必要な児童数（人）

学年	特別支援	不登校	日本語の習得に困難
1年	9	0	0
2年	9	0	0
3年	10	0	0
4年	6	0	0
5年	8	0	0
6年	11	0	0
計	52	0	0

※ 「特別支援」は、特別支援学級児童と特別支援教育校内委員会で支援が必要であると判断された児童（令和3年11月8日現在）

※ 「特別支援」は、特別支援学級児童と特別支援教育校内委員会で支援が必要であると判断された児童（令和3年11月8日現在）

ス事業所を訪問し、実際の支援の様子を参観した。モニタリング会議で話題になったことが、放課後等デイサービス事業所での支援に活かされていることや小学校と放課後等デイサービス事業所での支援が共通した方向で進められていることが確認できた。また、活動内容を区切ることで、意欲的に取り組む児童の姿から、活動設定の工夫など、今後の小学校での支援の参考となる情報を得ることができた。

エ 成果と課題（成果：○，課題：●）

- SSPシートを活用したことで、これまでに作成してきた個別の教育支援計画や会議の記録といった様々な計画等に記載していた内容を整理することができた。
- 「協議シート」を保護者や関係機関との情報共有に活用したことで、学校、保護者及び関係機関での支援や取組内容が共有でき、その後の支援に役立った。
- SSPシート等の支援に関する計画等の関係機関との共有については、クラウドサービスの掲示板機能やメール機能などを活用し、随時、連絡や情報共有をした方がより連携が取りやすいことも想定されることから、今後、活用を検討する。

1 研究の成果

- (1) 実態調査により、学年間・学校間の引継ぎ及び関係機関との連携の現状と課題を把握することができた。
- (2) 指導・支援の引継ぎのツールであるSSPシート及び引継ぎ・連携の在り方を示したモデルプランを提案することができた。
- (3) SSPシートとモデルプランに基づく研究協力員の実践を通じて、校内外における指導・支援の接続の在り方を具体的に示すことができた。
- (4) 研究協力員の実践を通じて、以下のようなSSPシートとモデルプランの有効性を明らかにすることができた。
 - ・ 支援が必要な児童生徒に関する必要な情報をSSPシートにまとめることで、情報の一元化・蓄積を容易にすることができる。
 - ・ 校務支援システム等を活用し、SSPシートのデータを共有することにより、一貫した対応等について複数の職員で共通理解を図り、効果的な支援につなげることができる。
 - ・ 学校間の連携において、在籍校と進学先でSSPシートを共通のツールとすることで、情報や支援を円滑に引き継ぐことができる。
 - ・ SSPシートを活用して関係機関との連絡会等を行うことで、一貫した対応や関係機関と連携した支援に取り組むことができる。
 - ・ SSPシートのデータを活用した情報共有をすることで、SSPシートの作成を複数の教職員で分担することができたり、指導・支援に関する会議等を改めて設定する機会を減らしたりすることができ、業務負担の軽減や業務の効率化につなげることができる。

2 今後の課題

- (1) 校内外における指導・支援の円滑な接続の取組を進めていくには、本研究の成果であるSSPシート等の普及が課題である。今後、各学校において積極的な活用が図られるよう「SSPシートの様式データ」、「SSPシートの記入例」、「研究協力員の実践事例」、「SSPシートやモデルプランの説明スライド」を「学校間等接続のための支援パッケージ」としてパッケージ化し、当センターのWebサイトからダウンロードできるようにするとともに、本研究内容に係る情報提供等を積極的に行っていくようにする。
- (2) 研究協力員による実践においては、学校の状況に応じてSSPシートの様式に工夫を加えたり、モデルプランを弾力的に運用したりして取り組んでおり、校内外における引継ぎや連携をSSPシートとモデルプランを活用してより一層円滑に進めていくには、以下の点について、更に取り組んでいく必要がある。
 - ・ SSPシートは記入する情報が多いと感じる教職員もいる。そのため、複数の教職員で作成を分担することや指導・支援に必要な情報のみを精選して記入することなどの工夫が必要であり、各学校等において理解促進に係る取組を進める。
 - ・ 特別な配慮を必要とする児童生徒の指導・支援のために作成している計画やシートについては、各学校や所管する市町村教育委員会によって複数あるのが現状である。今後も、作成すべき書類の精選・検討を進める。

【引用・参考文献】

- | | | |
|---------------------------|---|----------|
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領』 | 平成29年3月 |
| ○ 文部科学省 | 『中学校学習指導要領』 | 平成29年3月 |
| ○ 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領』 | 平成30年3月 |
| ○ 文部科学省初等中等教育局 | 『不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）』 | 平成28年9月 |
| ○ 文部科学省初等中等教育局 | 『不登校児童生徒，障害のある児童生徒及び日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対する支援計画を統合した参考様式の送付について（通知）』 | 平成30年4月 |
| ○ 文部科学省初等中等教育局 | 『不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）』 | 令和元年10月 |
| ○ 文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課 | 『障害のある子供の教育支援の手引』 | 令和3年6月 |
| ○ 中央教育審議会 | 『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）』 | 平成29年12月 |
| ○ 中央教育審議会 | 『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）』 | 平成31年1月 |

[資料]

本仮想事例の概要

- 小学校2年生，通常の学級に在籍
- 5月 教育相談で保護者から支援についての要望が出される
- 6月 担任が中心となってSSPシート，個別の指導計画を作成
- 8月 情報交換会の実施，知能検査の実施
- 12月 LD（学習障害）の診断，支援の経過と評価の確認
- 2月 引継ぎのための教育相談の実施

SSPシート

(Sustainable Support Plan シート)

共通シート	基礎情報，学年別欠席日数等，支援を継続する上での基本的な情報， 家族関係，特記事項
学年別Aシート	支援機関名等（校内・校外），月別欠席状況等，欠席状況等に関する 理由，次年度への引継事項
学年別Bシート	本人・保護者の状況・希望，本学年の目標，各学期の個別の支援計画 （個別の教育支援計画，不登校児童生徒の個別支援計画）
協議シート	会の記録等（本人・保護者の意向，関係機関からの情報，協議内容 等）

現在在籍する学校名又は卒業校名

(小) 大原台小学校

(中)

(高)

(よみがな) おおはらだい しょう

児童生徒氏名 大原台 翔

分類番号

共通シート

作成日: 2021/6/1

※の事項は障害のある児童生徒、外国人児童生徒等で必要な場合に記入

作成者 (小2担任) 吉田 太郎 追記者 2022年度(仙田 亜子)

(児童生徒) 名前 (よみがな おおほらだい しょう)	性別	生年月日	国籍等(※)	出生地(※)
大原台 翔	男	平成 25 年 9 月 23 日		

(保護者等) 名前 (よみがな おおほらだい あゆむ)	続柄(※)	連絡先	学校受入年月日(※)
大原台 歩	父	090-1234-@@@@	令和 2 年 4 月 1 日

○学年別欠席日数等	追記日→												
年度													
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
出席しなければならない日数													
出席日数													
別室登校													
遅刻													
早退													
欠席日数													
指導要録上の出席扱い													

○支援を継続する上での基本的な情報

(本人の得意なことやよさ、アセスメントの情報、障害の種類・程度・診断名・障害者手帳の種類・交付年月日(※)、学習歴(※)、日本語力(※)等)

- 得意なことやよさ
 - ・ 下級生の児童に優しく接する。
 - ・ 音楽の授業が好きである。
 - ・ トランプなどのカードゲームや車関係が好きである。
- アセスメントの情報
 - ・ NRTの結果・・・国語35, 算数36(2021.4)
 - ・ WISC-IIIの結果・・・言語性IQ105, 動作性IQ82, 全検査IQ93, 言語理解103, 知覚統合77, 注意記憶118, 処理速度89[2021年8月25日本校にて特支Coが実施]
- 障害の診断名等
 - ・ LD(学習障害)[2021年12月令和こどもクリニック], 精神障害者保健福祉手帳等取得無し

○家族関係

(生育歴、本人を取り巻く状況(家族の状況も含む。), 作成日以降の変化、家族構成(※)、家庭内使用言語(※)等)

- 生育歴
 - ・ 就学前の検診等では、多動傾向について指摘があった。就学前に1年間療育に通う。
 - ・ 小学1年生の2学期ごろから、学習面での遅れが目立ち始める。
- 家族状況
 - ・ 父、母、本人、弟(2歳下)の4人家族
 - ・ 父親は、警察官。今年度に入って、特別支援教育に理解を示す。
 - ・ 母親は、無職。本人の実態に応じた指導を行う必要性を感じている。

○特記事項

- ・ 小学2年生の5月に学習面について保護者より相談があり、担任がSSPシートを作成することになった。

学年別 Aシート

担任名	吉田 太郎	校長名	宮之浦 一郎
作成年月日	2021/6/20	作成者名	吉田 太郎
追記年月日(追記者名)	2022/2/28(担任)		

○児童生徒氏名等

名前(ふりがな) (おおはらだい しょう)	性別	学校名	学年	学級
大原台 翔	男	大原台小学校	2	1

○支援機関名等(校内・校外)

	主な支援・サービスの内容等	支援機関名	連絡先電話番号	担当者名
在籍校	【小学校】 ・ 平仮名の読み書きと1年生の漢字の読みができるようになる。 ・ 課題に取り組んだ後に、再度自分で確認し、修正することができる。 ・ 支援してほしいことを教師に具体的に伝えることができる。	大原台小学校	099-@@@-6543	吉田 太郎
家庭地域	【家庭】 ・ 宿題で間違えた箇所を一緒に考えたり、教科書の音読を聞いたりしている。 ・ 自分でできないことは、周りの人にしてほしいことを具体的に伝えるように言葉掛けする。	/	090-1234-@@@	大原台 歩
福祉	【放課後等デイサービス】 ・ 自分から課題に取り組んだり、支援が必要なときは担当者に要求したりすることができる。	放課後等デイサービス事業所「ジョイ」	099-200-@@@	教育 一如
医療				
その他	【教育委員会(スクールソーシャルワーカー)】 ・ 家庭に対して、学習面や生活面での支援の在り方を伝える。 ・ 本人に対して、学校生活を送る上で困っていることの相談に応じる。	市教育委員会(スクールソーシャルワーカー)	099-@@@-3333	総合 次郎(SSW)

○月別欠席状況等 ※追記日→

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数													0
出席日数													0
別室登校													0
遅刻													0
早退													0
累積欠席日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席日数(出席扱いを含む)													0
指導要録上の出席扱い													0
													0
													0
													0

○長期欠席、不登校(継続)等欠席状況に関する理由

・ 特になし

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)

・ 協議シートに記載(2/28追記)

学年別 Bシート

○児童生徒氏名等

名前(ふりがな) (おおはらだい しょう)	性別	学校名	学年	学級
大原台 翔	男	大原台小学校	2	1
学びの場		通常の学級	障害種別:	

○本人・保護者の状況・希望

	現在の状況	将来の希望(進路を含む)
本人	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きの困難さが各教科で顕著に表れている。 聴覚の短期記憶が弱く、準備物等を覚えておくことが難しく、忘れ物が多い。 勉強ができるようになりたいという意欲は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備士になりたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 今よりも、文字や文章が読めたり書けたりするようになってほしい。 忘れ物がなくなるとしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高校へ進学してほしい。

○本学年の目標

<ul style="list-style-type: none"> 1年生で習う文字や文章の読み書きができる。 授業に必要な用具等の準備を自分で行うことができる。
--

○各学期の個別の支援計画(個別の教育支援計画, 個別支援計画)

	目標	支援内容	経過・評価
1 学期	(生活面) ・ 支援してほしいことを教師に具体的に伝えることができる。 ・ 忘れ物を減らすことができる。	(生活面) ・ 困っている状況で、支援してほしいことを具体的に伝える練習をする。 ・ 授業に必要な物を自分で確認できるチェックリストを活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇が分からないので教えてください。」など、練習を重ねるごとに具体的に伝えられるようになりつつある。 自分からチェックリストを見て準備をすることが習慣になり、忘れ物が確実に減ってきている。
	(学習面) ・ 平仮名(清音)や、濁音などの特殊音節を読むことができる。	(学習面) ・ 平仮名カード(表面に一文字、裏面にその文字を使ったものが書かれているカード)を国語で毎回利用する。	<ul style="list-style-type: none"> カードの表面の文字を指でなぞりながら読んだり、裏面のものの名称を繰り返し言ったりすることで、平仮名(清音)はほとんど読めるようになった。
関係機関	(生活面) ・ 放課後等デイサービス事業所で行う宿題で、分からないことを自分から担当者に伝えることができる。	(生活面) ・ 学校と同様、支援してほしいことを伝える練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 担当者に対して、自分から分からないことを教えてほしいと言えるようになってきた。
2 学期	(生活面) ・ 授業に必要な用具等を自分で準備することができる。	(生活面) ・ 週報を手元に用意し、次の学習に必要な用具等を準備しやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> 週報を見て、必要な用具名に番号を付け、準備できたらその用具自体に同じ番号の書かれた付箋を貼ることが習慣になり、自分でほぼ準備することができるようになった。
	(学習面) ・ 平仮名(清音)や片仮名を書くことができる。	(学習面) ・ 毎日日記を書くようにし、そこで使った文字の誤字脱字を担当が毎回確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 日記で誤って書かれた文字を読み上げることで、間違いにすぐに気付けるようになり、教科書を見て自分で正しい文字に書き直す姿が増えた。
関係機関	(学習面) ・ 調理学習で作りたいものを自分で決め、それに必要な材料を準備することができる。	(学習面) ・ 作りたいものが決まったら、調理に必要な材料等を本やWebサイトを使って自分で調べられるようにタブレット端末を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が食べたいメニューを決め、積極的にそれに必要な材料を調べてメモすることができた。
3 学期	(生活面) ・ 係活動を段取りよく進めることができる。	(生活面) ・ 係活動の手順を教師と一緒に考えてメモを取り、それを見ながら活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 清掃係として、ほうきで掃いたり、雑巾がけをしたり、ゴミを捨てたりとメモを見ながら段取りよく掃除を行うことができた。
	(学習面) ・ 短文を聞いて、簡単な質問に答えることができる。	(学習面) ・ 記憶力を高めるために、短文を読んだ後、復唱を促す。復唱ができれば、質問していく。	<ul style="list-style-type: none"> 最初は聞いた短文をメモしてから質問に答えていたが、回数を重ねるごとに覚える内容が増え、メモなしで質問に答えることができつつある。
関係機関	(学習面) ・ 調理学習に必要な材料を買ってくるができる。	・ 必要な材料がどこに売っていて、いくらするのかを調べてから買い物に行くようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 事前の調べ学習に意欲的に取り組み、実際の買い物も自分から材料を探してレジで適切に会計処理を行うことができた。

協議シート

記録者 吉田太郎(担任)

日付 2021/5/13

学年	学級	名前	会の名称・参加者・機関名
2	1	大原台 翔	教育相談(保護者, 担任) ※保護者からの要望を受けて

○本人の意向

(本人の出席なし)

○保護者の意向

- ・ 授業等における支援の要望について
- ・ 忘れ物が多いことについての相談

○関係機関からの情報

(保護者からの情報提供)

- ・ 放課後等デイサービスでも忘れ物がある。
- ・ 伝えたいことを自分から言えないことが多い。

○協議内容

協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在取り組んでいる支援について ・ 今後の支援や校内支援体制の構築に向けた取組について 		
役割分担	機関・分掌名	主な役割	協議後の現状と課題
	担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の学習状況や実態について把握をする。 ・ 特別支援教育コーディネーターや前年度の担任と協力し、学校や家庭における支援策を検討する。 ・ SSPシート及び個別の指導計画を作成する。 ・ 具体的な支援を行う。 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題等の見届けや本人への励ましをする。 	
	特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や家庭における支援策を、担任と一緒に検討する。 ・ 情報交換会の日程調整や参加者との連絡・調整を行う。 	

○確認・同意事項

- ・ 複数の職員で支援に取り組めるようにしていくことを確認した。

○特記事項

- ・ 授業や宿題でうまくいかないことが多く、学校での不安を口にすることが最近増えてきているとのことで、保護者より教育相談の依頼があった。

学年	学級	名前	会の名称・参加者・機関名
2	1	大原台 翔	情報交換会(担任, 保護者, 放課後等デイサービス担当者, スクールソーシャルワーカー)

○本人の意向

- ・勉強ができるようになりたい。

○保護者の意向

- ・忘れ物がなくなってほしい。
- ・今よりも読み書きができるようになってほしい。

○関係機関からの情報

(放課後等デイサービス)

- ・お願いされたことを時間が経つと忘れてしまうことがある。
- ・次に何をしたらいいかわからず、指示があるまで動けないことがある。

○協議内容

協議事項	協議内容		
	機関・分掌名	主な役割 8/20	協議後の現状と課題 12/25
役割分担	担任	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の読み書きや、1年生の漢字の読みを中心とした個別課題の準備とチェックをする。 ・課題に取り組んだ後に自分で確認し、間違いを修正することができるようにするための確認の言葉掛けを授業中を中心に行う。 ・支援依頼の話型を準備し、本人と確認して指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名(清音)の読み書きがほぼできるようになった。 ・分からないところを自分から具体的に教師に伝えられるようになってきた。
	放課後等デイサービス担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解く時間を設定し、担任と支援依頼の話型を共有し、学校と連携した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりも自分から「手伝ってください」などと要求する回数が増えてきた。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物を少なくするように、学校に持って行くべきものを準備したかどうか、前日の就寝前や当日の朝などに声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し定時に声をかけた結果、自分からあらかじめ準備をする回数が増えてきた。 ・LDの診断について。(共通シートの基本的情報に記載済み)
	スクールソーシャルワーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に対して、学習面や生活面での支援の在り方について助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭には、本人の取り組み後に必ず褒めることを伝えた。それを実行したことで、本人の自己肯定感が高まってきている。
	特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・WISC-Ⅲの実施とその日程調整 ・WISC-Ⅲの結果についての本人及び保護者への説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月25日にWISC-Ⅲを実施した。 ・9月初旬に保護者及び本人への説明を行った。

○確認・同意事項

- ・学習面は主に学校が中心となって指導・支援を行うが、有効だった支援方法については他の機関でも可能な限り実践していく。
- ・本人が様々な場面で成功体験の獲得ができるように、引き続き情報交換を行い、成長した点の確認をしていきたい。
- ・実態把握及び支援策の検討のために特別支援教育コーディネーターがWISC-Ⅲを実施する。保護者の了解の下、関係機関(放課後等デイサービス「ジョイ」)とも結果の共有をする。

○特記事項

- ・特になし

学年	学級	名前	会の名称・参加者・機関名
2	1	大原台 翔	引継ぎに向けた教育相談(保護者, 担任, 特別支援教育コーディネーター)

○本人の意向

- ・ 勉強ができるようになりたい。

○保護者の意向

- ・ 忘れ物がなくなってほしい。
- ・ 今よりも読み書きができるようになってほしい。
- ・ 現在の支援の継続と、次年度の担任等への支援の確実な引継ぎをお願いしたい。

○関係機関からの情報

- (放課後等デイサービス)※担任の聞き取りから
- ・ メモ用紙を見て忘れ物をしないように自分から取り組むことができるようになってきた。
 - ・ 困った状況の際に自分から要求や依頼ができる場面が増えてきた。

○協議内容

協議事項	協議内容		
	機関・分掌名	主な役割	協議後の現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導・支援の成果について ・ 本人や保護者の支援や引継ぎに関する希望について ・ 引継ぎの具体的な方法について 	担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と引継ぎ内容の確認 ・ 次年度の担任との引継ぎの準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の日記で、間違えた箇所を丁寧に修正したり、読む箇所を指で押さえながら読み進める活動を続けたりした結果、特殊音節を除く平仮名の読み書きができるようになった。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSPシートでの引継ぎ内容の確認及び引継ぎに関する承諾 ・ 本人の願いや希望の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力で解くことが難しい問題は、自分から教えてほしいと要求することが増えてきた。
	特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年間引継ぎの会に関する調整を行う。 ・ SSPシート等の、支援に関するデータの整理を行う。 	

○確認・同意事項

- ・ 指導の成果について(学年別Bシートと個別の指導計画を活用)
- ・ SSPシートを活用して学年間引継ぎを行うこと。
- ・ 次年度の担任と4月中に教育相談を設定すること。

○特記事項

- ・ 特になし